

〈史料紹介〉

京都東山・三嶋神社文書「妙見宮拝所普請中日次記」の紹介（下）

水谷友紀

③4 安政三年辰三月廿日天赦日

一、此度馬町へ参詣道開発之儀、信者中へ願二付、山田氏相願今日吉日二付内談之上御聞濟被下候二付、山田大藏卿殿・其外小畑右兵衛殿初両三輩山二而重肴・田楽・酒等差出候事

一、植木屋藤吉此度道ひらき一件格別心配二付、今日参詣二而万端申合、猶追々相談可申様取極約定之事

一、貫月与申者、元五条塩竈町近江屋仁兵衛当時隠居二而、去寅年十一月へ当山留主居二相勤候処追々心配被致、此度道開成就之趣二付、諸向へ寄附物追々有之候趣二御座候事

四月朔日

一、大坂屋伊右衛門内申年女へ金壹両道開寄附、同貳百疋寛水寄進、外二ひら作へ金貳百疋・笹山某へ壹朱右貫月持参、預り置候事

四月六日

一、此日稲荷祭後宴二付、三日へ山上り御祈禱相勤度旨諸向信者中へ披露候処、貳百人斗参詣御座候処、昼後へ雨天二相成登山難相成参詣人困り候へ共、随分賑々敷相勤り候事」

③5 一、右二付赤飯貳斗・酒壹斗・にしめ、其外入用委細別記有之

七日

一、昨日参詣之方且不参之方へ御札・御鏡持参之積り二而、正面升伊迄罷出候処、昨日雨天二付参詣少し二而御神慮難相叶趣二付、尚来十五日勤直し可申様御詫宜有之候二付、藤吉へ相談之上来十五日御祈禱相勤候趣講中へ触直し申遣候事

一、右二付此度披露手拭三十斗藤吉世話二而出来、御印等伺濟二而講中門口へ釣下ケ申置候事

四月十五日 快晴

一、此日御祈禱相勤候二付講中一同参詣、凡五六百人斗登山二付、赤飯四斗・酒貳斗・肴類諸入用委細別記有之

右二付小畑帶刀殿・野村喜一郎山役所へ相詰候事

十六日・十七日

一、昨日山上り相濟二付、御札・御鏡配り、彈正・貫月罷出候事廿二日

③6 五月四日

一、上講中ひし源方へ彈正・藤吉御札・御供物・扇子等持参候事」
一、山上り諸入用、道ひらき諸払勘定之事

五月七日

一、貫月・藤吉入来、此度池田屋又兵衛ハ鳥居寄附二付、木材御領
山檜木式本御払伐相願候二付、山田氏へ内願候処、則御聞濟被下
檜式本頂戴之事

八日

一、御領山入口門・久遠山野口門、佐原彦次郎へ申付候処、大工手
間六人ニ而申付候事

四月二日

一、道ひらき見分として、彈正・小畑帶刀殿・野村喜一郎参向之事、
但し、金地院敷預り津国屋弥兵衛方内談候処、少し差支有之二付、
御殿御敷地有来通道筋北ノ方へモ間通開度旨治定候事
一、右二付酒肴持参、役中へ差出候事

十一日

一、道開畔鋤清助へ、手間八拾匁ニ而申付候事
一、道筋南脇竹垣柴刈中へ、手間式拾匁ニ而申付候事
一、道道木土橋入用・松木切手間・柚半人新助へ申付候事」

(37)五月十一日

一、新道南ノ入口門柱建外大工彦次郎へ申付候事、大工与兵衛四人
手間、十日モ人、十一日モ人、十二日半人、十三日モ人、十四
日半人 モ四人半
右二付手伝三人

十二日

一、表通土堀門柱際土手芝植手間、畔鋤清七式人ニ而申付、外二道
掃除道木手間三人 モ五人

十四日

一、日吉御神事二付参詣多有之事、但し、赤飯等貫月へ相任セ置候
事

十五日

一、日並題目修行二付赤飯モ斗武へ申付、にしめ

代徳貫六台文

やき豆ふ武十八十文
こんにやく五ツ六十文
ぜんまい代百文
しよゆう代百文

十六日

一、

六月十五日

一、御影講中ハ十界額奉納持参之事、但、酒・肴持参、此方ハ豆ふ
十丁、も、十こ出也

六月十八日

一、作州勝山中町朝飛屋森之助入来、右者備前和氣塩谷重兵衛ハ伝
聞候二付、当山妙見宮御世話申上度旨申出候二付、実意之取斗を
以御世話可申上様申付置候事

但し、右便所 大坂大川町尼崎屋弥右衛門飛脚問屋也

当着所 作州久世上総屋伊兵衛」

(38)六月廿六日

一、作州朝飛屋森之助へ略縁記・書状等相認差出候事
同廿八日

一、四条対州用達春日亀次郎右衛門ハ江戸対州藩中ハ小妙見宮并御
添書頂戴之儀申出候二付、例之通御礼録ニ而申出相渡申候事

九月十八日

一、御祈祷御題目修行、右二付講中世話方一同参詣、凡式千人斗参

詣人有之候事

十月五日

一、上京講中菱屋源兵衛世話二而、浄瑠璃連中竹喜緑玉・其外両三人惣ノ十三人日掛講取結、石灯笼寄附之趣二付、為挨拶藤吉同道二而扇子・御札參遣候事

但し、菱源へ菓子壺箱持參之事」

(39)十一月十二日

一、例年之通御火焚二付、御供米袋持參之者へ湯漬差出事

但し、奉納物諸入用別帳ニアリ、凡式貫文斗不足

安政四年三月十三日

一、上京菱屋源兵衛取次永寿講取結今日參詣二付、金五拾疋奉納二付、御殿^江請取相渡、饅頭^{三文}百五十・御鏡餅壺重式升取・御札百枚相渡候、昼飯に物^{せんまい、皿ひたし物、飛籠頭、水菜}、香の物 壺人分五分ツ、御神酒膳之上二而出ス、無滞相動候事

一、尾州御中講中三十壺人上京、金五拾疋奉納請取相渡、御影三枚遣候事

但し、上京講中膳部余分有之候二付、湯漬差出候事」

(40)十八日

一、例年之通惣山上り御祈禱相勤二付、御供米袋持參之者へ赤飯・にしめ出ス、凡三百人斗、委細別記ニアリ

一、上京菱屋源兵衛取次、開榮講浄瑠璃連中七十人斗取組二付、挨拶として酒十斗代金百疋持參之事

一、今度上京石灯笼奉納二付、道筋賑々敷引越候二付、内々町奉行同心今井小平太へ入魂二付、菓子料百疋相贈候事

但し、此節横山氏手続有之候二付、取次相頼候事

三月廿一日

一、上京開榮講中石灯笼奉納二付、講中人数三百人斗登山、右二付講中へ重積壺組・酒五升・饅頭三文千入、右之通被下之候事但し、弁当五分ツ、二而折入、藤吉取次二而八百屋へ申付候事、俄二雨天二相成、傘十三本・わらじ等用意事

廿二日

一、菱屋源兵衛母死去二付、悔として代人宗次郎下部壺人召連、香儀白銀壺両持遣候事

一、昨日蒸籠壺荷新助持遣候事、賃式百文渡ス」

(41)（*3）

五月十四日

一、日吉杜神事二付講中信者參詣之事

閏五月十八日

一、昨夜大雨二而、馬町野大藪口道大すり破損二付、道直し畔鍬庄兵衛へ申付候事

廿一日

一、信者広助与申者、此度西国九州諸国霊場參詣二罷出候二付、其向々へ年參可致様口達書差遣候事

口達

一、当御殿久遠山開運妙見宮江、先年參詣被致頂戴物等有之候向茂御座候へ共、其後無音之儀不束二候間、向後毎年參詣可被致様被成度 思召候、猶遠路上京相成難き向者、書状を以祈願之旨被申越、奉納物等差出候様、猶於 御宝前御祈念被為在候、仍而此段

可申達様御沙汰二付、右之段得御意候、以上

安政四巳年五月

大仏御殿

久遠山役人」

(42)

諸国

信者御中

尚以信者広助与申者、此度其向々江罷出申候間、御堂御修覆追々成就之旨委細承合、尚有志之輩ハ何品ニ而も御寄附可被下様致度候、以上

右之通相認メ外之信者講中所書・名前記相渡ス、久遠山絵図・扇二十本・錢別旁差遣候事

巳年七月三日

一、此度西ノ岡久我村信者講取結之者願ニ付、取次^{高瀬七左上ル}西村屋伊助誘引

ニ而今日十人斗參詣、久遠山ニ而夕飯・素麵・にしめニ而酒、貫月并弥兵衛世話方両三人取持差出候事

且、当社妙見宮本尊并靈宝等為拝者候也

午年十一月

一、久我村信者取次ニ而、摂州上牧村近在并河内葛葉村近在、其外五十ヶ村程之処、信者有之候由ニ而、其辺之輩追々參詣可有之様吹聴之処、此節葛葉村七右衛門与申者參詣ニ而、右講中へ追々申合、參詣可有之様取持可申談有之候事」

但し、參詣之節本尊并宝物為拝候処感心仕、追而講中へ披露可有

趣也、神酒・にしめ・ひたし物・湯漬・豆ふ汁ニ而二十人斗出

未年四月六日

一、久我村信者五十人斗葛葉村信者十人余參詣、於久遠山赤飯八

升・にしめ八十人前・重積にしめ二重 升重へ申付、神酒八升

竹の子・こんにゃく

ひたし一木爪

右世話方喜助へ相渡候事

三月廿日

一、上牧村本澄寺開基三百五十回法事ニ付、參詣旁西村屋伊助・久我村喜助同道ニ而、葛葉村七右衛門方へ罷越、来ル六日參詣之旨申談置候事

一、御鏡餅式重、久我村・葛葉村近在信者中へ相贈候事

未年三月廿六日

一、開榮講中へ先達而久遠山へ石灯笼壺基奉納之処、片シ出来候へ共当社本尊へ灯明献度旨ニ付、過日来石屋へ組建、今日出来見分旁參詣ニ付、酒三升・にしめ・すし・取肴鉢・鉢・吸物出之、肴代老步三朱美濃与へ申付、藤吉取次也

一、開榮講世話方玉亭此度見延山へ參詣ニ付、為錢別白砂糖代式匁相贈候事

四月十五日

一、玉亭下向ニ付、七面大明神御札・新茶壺袋到来候事

十六日

一、開榮講淨瑠璃会、今日今三ヶ日興行之由也」

(44) 一、右講中へ毎日御膳料・御経料壺朱ツ、奉納之処、会日年分四度二月・四月・八月・十月興行度毎ニ金百疋ツ、奉納有之様治定ニ而、去十月分二月分受取通相渡候事

未三月朔日

一、久遠山留主居貫月義、旧冬へ病氣之由ニ而引取申度旨ニ付、七町目亀屋庄兵衛留主居代申付候処、是又断ニ而、伊勢屋伊兵衛・鍔屋庄七・花屋三五郎世話ニ而、恵代ト申僧老人留主居同居之旨、

依願伺済之上同居ニ申付、朝夕御経読誦・題目修行無懈怠相勤候様申渡、然ル処、忝人ニ而者不都合之儀も有之候間、今忝人兼而

西村屋伊助ハ願出候者有之候間、右者三ノ宮町大黒屋フ父辰五郎与申者二而、六十才余之者二候へ共、何か用向之節者右フじ・

西村屋俱々ニ世話可致答二而、四月朔日ハ留主居申付候事

右ニ付山林方青水正親殿 下役野村喜一郎 小畑常刀殿 藤木松五郎 金沓朱ッ、銀式々ッ、差出候

台所方 梅辻一学殿・鈴木東一殿、酒切手二枚差出候事

未四月十五日

一、大坂北野三場真照院与申尼願主二而、実子丹州桑田郡棚田村蓮華寺住僧延寿院日照証人二而、大妙見宮御像頂戴仕度旨依願相伺候処、山田大藏卿殿聞済二而相渡候事

一、大妙見宮 忝体 一、御添書 式通 一、規定書 式通

一、御首題 三枚 一、受取書 忝通

奉納金千疋御用部屋へ相納候事」

(45) 三月

一、雲州

小妙見宮忝体・御添書忝通・外印札願二付、内々別段相渡ス

大仏御殿

久遠山法華堂

年参印鑑

安政六未年五月廿五日午ノ日

一、今度高瀬七条上ル西村屋伊助取次二而、石鳥居ハ基奉納、右ニ付世話方参詣之節、大手饅頭百五十ハ籠二而被下、依之後日御書下ケ左之通被下候事

御奉書横折

一、今般久遠山妙見宮江石華表ハ基奉納候条、神妙之至二候也

未五月 大仏御殿 御役所印

西村屋伊助取次 鳥居講世話方中」

(46) 奉書豎書

一、久遠山妙見宮江今般信心之輩可致月参旨、神妙之至二 思召候、

猶以抽丹誠信仰可有之者也、依而執達如件

大仏御殿 御役所朱印

未五月

右式通御添書箱二入被下候

西村屋伊助取次

鳥居講 世話方中

同五月朔日

一、上久我村新助并世話方三国講中取結、今度日吉門前石壇南方へ石標ハ基奉納二付、講中ハ金百疋奉納二付、御書下并受取書相渡候事

一、今般久遠山妙見宮へ石標ハ基奉納候条、神妙之至二候也、仍而

執達如件

未五月

大仏御殿

御役所印

上久我村

三国講世話方中」

(47) (*4)

小奉書豎書

一、今般久遠山妙見宮江信者取結可致年参旨、神妙之至二 思召候、弥以抽丹誠御世話申上信仰可有之者也、依而執達如件

未五月

大仏御殿
御役所朱印

上久我村

三国講中

世話方中

右式通御口旨箱二入被下候

覚

一、金 百疋

右者開運妙見宮江奉納候条神妙之至候也

未五月

大仏御殿
御役所

上久我村

三国講

世話方中

(48) 未年八月十六日

一、甲州都留郡松浦善三郎上京、右者先年講取結方申付置候処、其後金貳両奉納、旧冬金貳百疋上納、甲州・駿州并伊豆三ヶ国二而開元講取結二付、小妙見宮壹体并御添書等相渡、御札三百枚・御影貳十枚・御首題五枚被下候事、猶追々出精可有之様申渡候事
一、右同村清右衛門与申者、妙見宮偽御影拵信者へ為受候趣二付、右板木取上可申様善三郎へ申付、清右衛門へ手紙遣候事

安政七申年三月

一、久我村講中参詣、旧冬世話方新助死去二付、跡世話方名前相改講札奉納之事、世話方名前左之通
善右衛門 伊兵衛 平兵衛 弥平次 弥右衛門
清右衛門 宗兵衛 四 平 市之助 新 助
右之通世話方相改参詣可致候事

(49) 万延元年閏三月十六日

一、信州諏訪高嶋天野磯五郎与申者、妙見宮小御写一体御書添壹通頂戴之处、御宝前へ灯明之提灯奉納之儀依之候处、提灯出来合無之候へ共、書付斗相渡候事

奉書横折上包

当御殿久遠山開運妙見大菩薩御写尊像御宝前へ、御紋附之小提灯貳張奉納候条、永々大切二守護可有之者也 新助

申

閏三月

大仏御殿
久遠山御役所印

(図省略)

信州諏訪高嶋
天野磯五郎

右之通図取相渡候事、取次村上勘兵衛代へ相渡候事

(50) 万延元年閏三月十日

一、旧年今妙見宮留主居辰五郎義、勤向不行届二付申聞候得共、何分老人之儀故、不行届二相成候段恐入候二付、此段御断申上、今度御暇被下候様奉願上候二付、願之通暇被下候事
一、右二付、去年迄罷在候恵代留主居之儀奉願上候二付、松屋藤吉請人二而願之通申付候事

乍恐奉願上候口上覚

一、

私儀

生国丹州亀山安町 田部屋八右衛門 八才同所本町法華寺寂音院日広 悴二而出家仕 弟子二而出家仕罷在候处、近年洛東八坂妙見堂堂守相勤罷在候处、昨年来当御殿御山内妙見宮御堂守相勤度、願之通御聞濟被成下難有仕合奉存候、然ル処昨年病氣二付御暇相願候へ共、此節病氣全快仕候

(51)

二付、何卒再勤之儀奉願上度存候、右願之通御聞濟被成下候ハ、日夜朝暮勤行無懈怠相勤可申候、且御宝前并御堂内外掃除等精々心懸可申候、万一心得違之儀御座候ハ、証人之者共急度可申付候、尤此僧二付、如何様之事二不寄不時之儀出来仕候共、請印之者共引請、御役人様方へ少も御難儀者相懸ケ申間敷候、依而此段宜御取成之程奉願上候、以上」

万延元申年閏三月

惠代

証人

松屋藤吉

大仏御殿

久遠山御掛り

御役人中様

万延元申年五月廿五日

御住山中

一、六角不動院先住少貳、先年山門東塔御宿院本覚院御留主居相勤居候者二而、其後御館入被仰付、大仏殿大般若之節、御語合二出勤茂有之候処、近年病氣二而隠居之処少々快氣二付、此度妙見宮御供所御留主居願之趣申出候二付、重役衆へ内談申入候処、先願書可差出様被申候二付、左之通願書差出候事

乍恐奉願上口上之覚

一、

拙僧義

当御殿江從來御館入被仰付、難有仕合奉存候、然ル処、御山内妙見宮御供所御留主居御無人之由及承候間、乍不調法右御留主居相勤度奉存候間、何卒格別之」

御憐愍を以、願之通御許可被成下様奉願上候、尤何事二不寄若御差支之儀出来仕候ハ、証人之者罷出早々引受埒明可申候間、

(52)

此段宜御取成之程偏二奉願上候、以上

万延元年申五月

願人

皆如院印

証人北野御前通下森上ル

西雲寺印

禁中御使番 同塔ノ段
伊地知左京印

大仏御殿

御役人中様

一、右願書差出候二付、是迄留主居代相勤居候惠代義、此度証人藤吉方へ引取候様申達候事」

(53) (*5)

万延元年申六月

一、河原町二条上ル清水町住人今津屋利右衛門与申者發願二而、此度町内へ妙見堂取建申度旨、開榮講桔梗屋卯兵衛同道二而申来候処、何分新規義ハ陸ヶ敷次第二候へ共、熊倉市太夫殿へ松葉屋善兵衛を以内々問合申候処、外方之例を以天明火災之節焼失仕候二付、神体町内へ取仕舞置候処、此度当町西側中程町中持明地面へ、別紙朱引絵図面之通、東西九尺南北八尺之妙見宮鎮守取建、雨覆二式間半四方之手輕キ簀屋根取建申度、此段奉願上候、尤町持地面之内二而他之差支者勿論、諸往来差際等一切無御座候間、右願之通御聞濟可被成下様奉願上候、此趣を以則西町奉行所へ相願候処、新家目附小寺仲藏へ熊倉右内意兼而下調有之候二付、六月十八日出願之処、願書預り候而、七月朔日地見分相濟、願之通聞届二付、当御殿今妙見宮尊像先前々頂戴有之候処、天明火災之節社焼失仕候二付、此度御奉行所へ奉願再建仕度奉存候間、右尊

像御修復被成下、御書添等御改御下ケ可被成下様奉□度旨内談之上、願書左之通差出候事

乍恐奉願上口上之覚

(54)

一、当御殿妙見宮私共先代々信仰仕候ニ付、先年御写尊像頂戴仕、町内持家之内ニ鎮守有之候処、天明度社焼失仕、其後町内取仕舞置候処、此度町内明地面へ妙見宮鎮守社如已前再建」之儀 御奉行所へ奉願上候処、願之通御聞濟ニ付、右尊像此度御殿々御修復被為在、御添書御改御下ケ可被成下様奉願上候、右願之通 御許容被成下候ハ、永々半季度金百疋ツ、御冥加御規定之通、無相違上納可仕候、尤追々繁栄仕候ハ、半季度ニ金貳百疋ツ、上納仕候得共、当時者右半季度ニ金百疋ツ、御座候、依而何卒御憐愍を以、右願之通御聞届被成下候ハ、難有仕合奉存候、以上

万延元年申七月

河原町二条上ル 清水町

年寄 今津屋理右衛門印

五人組 池田屋徳兵衛印

同 近江屋利兵衛印

町中惣代 大和屋新助印

大仏御殿

妙見宮御掛り
御役人中様

一、右願通御聞濟ニ付、七月廿六日午之目御達書相渡候事

大奉書横折

開運妙見大菩薩尊像

右宝暦年中其町内々依願被下置

鎮座有之候処、天明大火之節

鎮守社焼失ニ付、神像取納有之候処、

此度 奉行所へ相願御聞濟
右尊像安置仕度旨、願之通

(55)

(*6)

御添書等相改メ被下置候間、
有之もの也

大切ニ致守護永々無懈怠信仰可

万延元年申七月

大仏御殿

御役所印

河原町二条上ル
清水町

年寄 利右衛門

五人組 徳兵衛

同 利兵衛

右ニ付金千疋奉納之處、此度金五百疋上納、尊像頂戴之節金五百疋上納之事

御添書左之通 中奉書堅書

開運妙見大菩薩 天下泰平国土安穩 五穀成就其地繁栄

武運長久一切無障礙 守護之神像也

申七月

妙法院宮

執事印

右両通御玄関於三ノ間相達候事、畢而干菓子被下之、忝人前代式勿ツ、年寄今津屋利右衛門并妙見宮堂守亀屋源助両人參 殿、右之通被下之事

(56)

一、右妙見宮尊像者、内々上京開栄講内ニ先年来守護有之候処、当季時節柄ニ而西陣一同不景氣ニ付、信者之輩不都合ニ相成候ニ付、内々相讓度旨ニ候得共、表向」右之次第二拵、御殿々金三百疋被

下之、清水町分前段金貳百疋差出シ、都合金五百疋開榮講世話方
菱屋源兵衛・中村屋玉亭ニ被下之候事、此訳松屋藤吉を以掛合ニ
及、七月九日尊像受取申候事

申十二月廿一日

一、清水町鎮守社此節出来二付、妙見宮尊像御下ケニ相成候様願出
候二付、今日御渡ニ相成候、且、大仏殿三天合体大黒天御写壹体、
妙見宮脇立ニ祭度旨、願之通御聞濟ニ而御渡被下候事

右御添書左之通

三天合体大黒天 天下泰平国土安穩 五穀成就福寿増長

運命長久諸願 成就守護之神像也

申十二月

妙法院宮執事印

一、当日未之刻町内御迎之人数、今津屋利右衛門始五人組等七八人、
其外信者十人斗当家へ入来、麻上下着用、休息之上 妙見宮本尊
拜礼并宝物拜見相濟、夫分御殿へ参上、瑞竜殿ニ而彈正面会、願
之通御写尊像御渡旨相達、於麝香之間妙見宮并大黒天御像添書等
今小路法印殿分御達有之、彈正侍座、畢而瑞竜殿分餅饅頭貳百・
蒸籠壹荷町内へ被下之、夫分御内玄関分唐櫃偏進発之事、竹中逸
太御添使相勤

押御印羽織着用 唐櫃^{持人御印之半被着}
下部二人

竹中逸太麻上下着用 町役

人同断

別外ニ小頭藤三郎付添、其外信者中群行、北ノ御門分新シ町・

建仁寺町・三条河原町

一、彈正先廻り、当到着之上上遷宮相務、畢而休息、酒飯出候、戌
ノ刻退出也」

(57) 一、右御礼禄金千疋之處、先般御書添頂戴之節五百疋上納、金五百

疋、大黒天頂戴ニ付金五百疋、都合千五百疋上納、請取書被下之
但し、御殿中番下部借用ニ付、小頭中番へ三百文ツ、下部へ貳
百文ツ、遣之事

一、元治元年子四月十一日

一、大坂阿波座伊達町播磨屋長兵衛と申者、宝延講取結年參可致旨
申出候ニ付、小妙見宮一体・御添書老通箱入、其外ニ達書左之通
当御殿久遠山開運妙見大菩薩江、今般於其地年參信者取結可致旨、
神妙之至ニ候、尤勸化ケ間敷儀一切致間敷候、弥以抽丹誠信心可
有之もの也

子四月

大仏御殿 久遠山 御役所印

(58)

一、右講取結ニ候得共、小妙見宮壹
体・御添書老通申出相渡候處、尊
像者是迄講内ニ有之候ニ付、別紙
書下ケ已而ニ而相濟候事

一、釣提灯願ニ付、印書左之通渡

大仏御殿 久遠山 妙見宮 裏ニ宝延講

右御威光を以龜略之儀無之様可致候、猥ニ私用且非常之節堅持參
致間敷、大切ニ可致者也

子四月

大仏御殿久遠山御役所

宝延講 構中連名

御請書

一、当御殿久遠山妙見宮秘其兼而信仰仕候二付、今般於大坂町内信者取結年参仕度奉存候、尤御威光を以龜略之儀無之様可仕候、且勸化々間敷儀決而仕間敷候、猶毎年三月定日参詣仕、御初穗奉納無相違可仕候、依而願之通御許容被成下難有仕合奉存候、以上

元治元子年四月十一日 大坂阿波座伊達町

講元 播磨屋長兵衛

箱元 奈良屋利兵衛

世話人 丁子屋治兵衛

同 播磨屋長四郎

大仏御殿久遠山御掛り
御役人中様

但し、右者広助取次二而取結相成候事

一、金貳百足奉納内金百足卜銀三匁御殿江上納、余り御札料受取候

事

元治元年四月十日

一、関東公家衆中條侍從殿家来松嶋登与申者、去月廿八日、梅辻平格殿分吹拳二而久遠山へ参詣致、掛り役へ面会致、内願儀有之趣二付面会致候処、兼而下総国香取郡大寺村長福寺地内常昌堂卜申、題目修行場所所有之候処へ、当御殿妙見宮御写尊像勸請申度旨、同国鈴木政五郎心願二付、此段願度趣演説二付、猶重役共へ相伺可申旨返答致置、山田筑州殿へ内談仕候処、実意之儀二候ハ、領主・地頭二も差支無之候ハ、御聞濟可有之旨被申候二付、猶又右之趣返答申聞候処、其訳書面二相認被下、国許へ相達度旨二付、左之通書面認遣候事

一筆致啓上候、薄暑之節御座候処、弥御安全被成御勤珍重之儀奉存候、然者過日来御内願之儀、当御殿久遠山開運妙見宮御写尊像、下総国香取郡大寺村長福寺内常昌堂之辺二被致勸請旨、鈴木政五郎殿」発願之趣委細致承知候、右二付相伺候処、本人上京二而被相願候ハ、可然奉存候へ共、遠路之事故若差支も有之候ハ、代人二而も上京可有之候、尤地頭・領主二も差支之儀無之候哉、添書二而も被差出候ハ、可然儀二奉存候、此段宜敷御通達可被成候、先二右為可得御意如此御座候、以上

(60)

四月八日
中條侍從様御内
松嶋登様

尚以前文之次第早々御通達有之候ハ、否哉御答可有之様致度候、以上

四月八日
中條侍從様御内
松嶋登様

尚以前文之次第早々御通達有之候ハ、否哉御答可有之様致度候、以上

之様致度候、以上

一、右書面認遣候処、尚又関東二おゐて内拝之儀相催度旨・趣書取可申旨内談二付、左之通

別啓

過日者御光来被下拝顔大慶二奉存候、毎々美菓御恵投被下不浅忝奉存候、扨関東二おゐて本尊内拝等之儀、兼々御内談も有之候得共、此儀者不容易儀二御座候、乍併方今御時節柄天下泰平為御祈祷、何卒御取持御座候ハ、広宣流布之御手伝とも可相成候間、尚又可然御相談も申上度奉存候、何も時節到来之儀二御座候、右乍内々此段申入度如此御座候、以上

四月八日

友田弾正

松嶋登様」

(61) 五月三日

一、松嶋登関東へ下向可致旨二而入来、其前 妙見宮宝物掛物相見
セ候処、殊之外信仰二而、右之宝録記相認呉候様被申候二付、宝
録壹冊相認差出候事

名古屋

但し、為錢別扇子三本相贈候事

元治元年子五月三日

一、清水町妙見宮江祖師像壹体先年来預ケ置候処、此度永々其町内
へ相納可申約定二而、金千疋当社へ奉納之訳二付、別紙書付左之
通相渡

奉書堅二

天拝厄除日蓮大菩薩 摂州上牧村本澄寺厄除祖師尊像同体二而、
慶長年中牧俊景当山ニ納所也、後陽成院帝 妙見宮卜興ニ御拜有
之、依而天拝厄除尊像ト称奉者也

朝岡山妙見宮別当印

同横折

天拝厄除祖師尊像当山ニ伝来之處、先年来其町内妙見宮勸請二付、
預ケ置候処、依信仰永々奉納可致者也 朝岡山妙見宮別当
友田左京印

清水町役人中

(62) 同

証

一、金千疋 右天拝厄除祖師尊像奉納二付、為冥加当社江寄附被致
候条、神妙之至ニ候、依之為後年一札如件

朝岡山 妙見宮
友田左京印

清水町役人中

右之通書付相渡、永々納置候事

但し、右之尊像者先年諸国年参信者取結之節、於 殿中拝礼為致候
得共、近年其儀無之故当社へ預り申候処、右町内「」繁昌
二付、右之通取斗致候事也

元治二年丑二月十三日

一、尾州藩中武内錦太郎参詣、此人武内宿祢末孫之由ニ而、当時尾
州侯二仕へ候処、昨年来尾張前大納言殿長州征伐に下らせ給ひ、
此節上京ニ而速ニ御凱陣ニて御帰国有之候様・妙見宮へ御祈禱申
上候様被相頼、御札献上致度旨二付、金貳百疋奉納、依之御札相
認進上候事

一、右武内錦太郎家伝神応即能音といふ音葉有之候処、当社妙見宮
武内宿祢之由来有之候、依而妙見宮御夢想として此度伝授して、
当家伝来音葉世上に施候者也、右製法方別紀ニアリ

改元

慶応元年五月

一、久遠山蔵板として唐詩選小本開板之儀、本屋小兵衛ハ願出候ニ
付、願之通聞濟候処、今小路治部卿殿へ内談申候処、御差支無之
旨ニ而、願之通御聞濟候事、右壹部二付冥加銀壹匁ツ、此度三
千部二付銀三百匁奉納之事

(63) 右二付願書左之通

乍恐奉願上口上之覚

一、当御殿久遠山妙見宮信仰仕候ニ付、御堂并御茶所御修復為御助成、唐詩選小本開板仕御蔵板ニ仕立、右御冥加可上納仕候間、格別之以 御憐愍右願之通御許可被成下候、尤右一条ニ付、如何様之儀出来仕候共、決而御役人様方御難儀相懸申間敷候、此段宜御取成程偏ニ奉願上候、以上

慶応元年
丑五月

醒井五条下ル町
本屋小兵衛印

堺町松原下ル町
秋田屋藤六印

大仏御殿
久遠山

御役所
御役人中様

右願書今小路法印様へ差出候処御聞濟候付、御礼金百疋差出候事、唐詩選壹部ツ、今小路・菅谷・山田・中松井・南松井へ進上之事、薄様摺壹部 勝安養院殿御附弟普応院殿へ献上

一、右御益上納ニ付、受取印鑑帳前書左之通

当御殿久遠山妙見宮御修復為御助成、唐詩選御蔵板取扱方被仰付、板木御渡置ニ相成候間、万端大切ニ可致取扱候、御冥加之儀規定之通無相違上納可有之候、依而右之通被 仰出候事

丑五月 大仏御殿 久遠山 御役所印

本屋小兵衛
秋田屋藤六 江

一、唐詩選壹部ニ付御冥加銀壹分宛上納可仕様、御規定之通相違無之事」

(64) 一、右御蔵板ニ付自然不都合之儀有之候ハ、板木早々御取上ケニ相成候事

一、臨時非常之節者、板木持參御預リニ相成候事

慶応元年丑年八月

一、清水町妙見宮、昨年七月大火之節類焼之処、此度再建相催飯殿遷座有之候ニ付、拙者ハ相願、金百疋御殿ハ御奉納被為在候事
右ニ付、自分ハ金貳拾五疋奉納致候事

但し、昨年八朔当年始八朔三ヶ度御礼金壹両貳朱上納、扇子料白銀三両上納之事

慶応二年三月三日

一、関東中條殿家来松嶋登殿入来、外二江戸亀嶋町近江屋専助手代万吉来、右者先年鈴木政五郎心願ニ而、妙見宮御写勸請之儀内願候処、右政五郎死去ニ付延引、此度豆州加茂郡下田町百姓半吉与申者心願ニ而、宿坊同所小田町本覚寺日莊ハも添願有之、且同所名主清吉ハも松嶋氏ハ願之趣書付持參候而、本尊御写勸請之儀願之趣被申間候ニ付、地頭所ニ而差支無之候ハ、御殿者御聞濟ニ可相成哉之返答申入置候事

但し、三月節句祝酒・有合物ニ而、酒肴・すし等出之

三月廿日

一、松嶋登殿中條殿旅宿北野松梅院へ行向、登殿面会、過日内談之儀重役内談申候処、所ニ而差支無之候ハ、御聞濟可相成候旨申入候処、半吉并名主清吉宿坊本覚寺へ手紙認差遣候様被申間候ニ付、翌日手紙左之通相認為持遣候事」

(65) 以手紙得御意候、然者 当御殿 妙見宮信仰之由ニ而、其地へ御写

尊像勸請仕度旨願之趣、松嶋登殿ハ委細致承知候、於其地差支無之候ハ、速ニ御聞濟可相成候間早々上京可有之候、猶其上万端可申入候、此段為可得御意如此御座候、以上

三月廿二日

友田彈正

豆州下田町
半吉殿

尚以此書狀着次第、早々上京可有之様致入候、以上

以手紙得御意候、然者其地下田町半吉与申者、当御殿妙見宮信仰ニ付、其所江御写尊像勸請仕度旨、松嶋登殿ハ願之趣致承知候、於其地差支之儀無之候ハ、願之通御聞濟ニ可相成候間、半吉上京之上尊像御渡可相成候、猶委之儀者松嶋殿ハ通達可有之候、依而此段為可得御意如此御座候、以上

友田一

豆州下田町名主清吉殿

以手紙得御意候、春暖之節弥御安靜珍重奉存候、然者其地下田町百姓半吉義、当御殿妙見宮兼而信仰ニ付、其地へ御写尊像勸請仕度旨、松嶋登殿へ其地ハも添願之由委細致承知候、右ニ付於其地差支等無之候ハ、御聞濟可相成候、尚委細之儀者松嶋登殿ハ通達可有之候、依而此段為可得御意如此御座候、以上

三月

友田一

豆州小田町
本覺寺
御房

一、此度奥州箱館辺開港ニ付、繁昌之地へ妙見宮勸請之儀相催、夫ニ付取調方として、伊藤長門并長右衛門与申兩人呼登候様、手紙

(66) 認具候様登殿ハ被申聞候ニ付、左之通未不得御意候得共、以手紙得御意候、春暖之節弥御安靜珍重令存候、然ニ当御殿妙見宮信者取結之儀ニ付、松嶋登殿ハ此度奥州箱館辺取調方其許殿へ之「通達之趣ニ付、委細万端取極方御示談申度令存候付、早々上京可有之様致度存候、尚、委細之儀者松嶋氏ハ通達可有之候、依而此段為可得御意如此御座候、以上

三月

友一

伊藤長門様

又壺通

長右衛門殿

尚以此書狀着次第、兩人同道ニ而上京可有之様致度候、猶面上いたし可申入候、以上

一、右書狀五通相認差出候事、且下田町半吉、万一上京延引ニ相成候ハ、代人二而も上京可然候よし、松嶋氏へ別紙書面差遣候事
四月十三日

一、松嶋登殿旅宿北野松梅院へ行向、豆州半吉上京延引ニ相成候而之不都合ニ御座候間、代人二而も上京可有之様申聞候処、何分遠方故急々上京之儀難斗、此節書狀着致候哉之儀ニ付、来月上旬比ニ上京も可有之哉之噂候事

但し、平野入口茶屋ニ而彼方ハ一酌被差出候事」

(67) 慶応二年寅四月二日

一、大坂宝延講中世話方拾壺人參詣、未之刻比久遠山へ着、夕飯・神酒等差出、当山ニ而拾人止宿、壺人者親類方へ止宿、入夜拙宅へ播磨屋長兵衛来、此度大坂表ニ而、当山妙見宮茶所再建之披露

致寄附物取集メ、金五両并錢拾八貫文程相寄候二付、右木材料として奉納仕候間、早々御普請取懸り被成下候様申出、外二講中ノ金千疋奉納、右請取書相渡、又堂嶋浜^ご場浜^ご大提灯^ご対宛奉納、是又取次迄請取書相渡候事

取次上源 取次市村五之助

一、三日早朝久遠山於御宝前、講中御祈禱御題目修行神酒^{土器}・あ

け^{高野}・こんふ次^{青のり}ニ吸物^{いもまき}一、にしめ^{干ゆは}一、ひたし物^{木瓜}わかめ 右

差出講中一同へ挨拶、御鏡餅^{壹重}一、御紋付猪口箱入、参詣

人十一箱、外二堂嶋^ご場ノ世話方五箱、又四箱差遣候事

一、御殿御庭拝見仕度旨相願候へ共、此節御普請中故俄二拝見難相成旨申置候事

但し追々講中取結ニ相成候ハ、前以其積御掃除等相調可申候哉申入置候事

一、右講中参詣之輩左之通、講元大坂阿波座伊達町樋之上北へ入

播磨屋長兵衛

講頭 帶屋丁 奈良屋利兵衛 世話方 伊達町 豊屋治助

世話方 伊達町 尾張屋忠兵衛 同 箱屋丁 尾張屋庄助

同 帶屋丁 尾張屋弥助 同嶋之内高間丁 瓦屋栄助

同 鉄屋丁 鍛冶屋光蔵 同 同丁 糸屋伊助

同 助^口町 武蔵屋嘉吉 同 南農人町 播磨屋長四郎

同妻かし

メ拾壹人

右諸入用 米四升代貳貫四百文 酒四升代貳貫四百文

(68) 一、五貫文^{諸入用にしめ}一、六百五十文 御鏡餅^{壹重代}メ拾貫四百

五十文

此処へ三貫六百元 惠覚へ渡 講中ノ茶料

五貫文 同 回向料

開扉料

メ八貫六百元

差引

壹貫八百五十文 不足

代金壹部 奉納之内ノ渡

四月十五日

一、相州小田原青物町熊沢屋清七、昨丑・当寅両年分奉納金貳百

疋書状を以差出候二付、返状請取相認、富小路仏光寺下ル市田屋

清七へ、幸便ニ遣呉様申遣候事

但し、市田屋者中村縁者二付、同人へ相頼候事

慶応二年寅十二月

一、松嶋登殿入来、右者先達而、豆州下田町百性半吉、相願候本

尊之御写壹体彫刻有之候処、本人上京も延引ニ付当分登殿方へ受

置、其上国許へ早々可申遣旨ニ付、金五両持参本像御写相渡、御

添書後日可差出申様申置、右世話方新町一条上ル町木村忠兵衛・

同町西野九郎兵衛同道二而入来、兩人取結方達書可遣候事

但し、卯二月十七日御添書并世話方兩人へ取結方書付相渡申候

事

慶応三年卯二月十六日

一、摂州嶋上郡宮田村百性小左衛門、当山妙見宮信仰ニ付、御写壹

体但し、能勢形也御添書壹通但し、箱入右之通相渡候事

奉納金五百正外ニ菓子料壹朱 但妙見宮御像厨子入代金貳歩貳
百文

御添書箱代金貳朱

紙代百文」

(69)慶応三年卯六月三日

一、伯州久米郡田内村高見新右衛門・同国生田村足達甚兵衛此兩人、
妙見宮御添書相願度旨申出候二付、妙見宮御添書足達甚兵衛、高
祖日蓮大菩薩御添書高見新右衛門へ相渡、右為御札金百正ツ、差
出候事

但し、尊像頂戴可仕筈之處、勝手ニ付御添書斗

頂戴仕度、尚追而帰国之節申出候様申居

候事

卯年九月廿四日

一、関東松嶋登々書状到来左之通

一筆啓上仕候、秋冷之砌愈御安健被遊御座珍重至極奉存候、次ニ
小子無異儀罷在候間、乍憚御安意可被下候、扱在京中者每々参上
仕失敬之段真平御用捨可被下候、然ニ兼而御内談申上候半吉義ニ
付、種々心配仕度之書面差遣候へ共、折悪敷同人類焼致し、殊ニ
時節柄貧困人大騒動故彼は心配大方ならず、依而右出府仕兼存外
延引ニ相成申候、在京中申上置候小川通り木屋野幸兵衛与申もの
飛脚差遣、八月下旬半吉出府相成、其後武州玉川洗足御松庵ニ而
御尊像相渡申候、九月三日拙者江是迄之骨折として金貳拾兩之持
参致、右之内ニ而心懸候尊像二体、外ニ神前江備候御道具且縁記
并札守等ニ至迄新調仕候処、時節柄殊之外入用相成候へ共為後日
与奉存候故、神前向々相応へ仕置候得者、何時御使御下り相成候

而も宜敷様仕置申候間、此段左様思召可被下候、尚又半吉義何れ
来春上京仕度与申候間、其節尊公様御目見奉願 妙見宮御普請御
手伝も為致度奉存候、尚又御冥加年々為相納度様此儀御心得可被
下候、就中船中安静之御守者御殿分御下ケニ相成申候様ニ致度与
奉存候、此段申聞置候間御心得迄ニ申上候、将又年々御引替ニ致
度与拙者奉存候、是又御承引可被下候、一、洗足御松庵ニ而御扱
置申候間、便儀之節者右御松庵内厚心院与申僧江 御殿分御思召
ニ而御尊書被下度、其訳拙者尊像御納申置候間、是又御承知可被
下候、一、金貳百正之御菓子料并五両金也、御札として差上申候、
宜御取斗可被下候、将又拙者御承知之通万事行届不申故、夫々信
者中江相談ト何事も仕度与奉存候へ共、唯有而相談ニ相成不申余
り残念御座候間、何事も忝人ニ而了間仕、只々御繁昌之御手伝ニ
も致度奉存候、依而右金子請取候而も請不申候、何卒御賢察可被
下候、右御菓子料拙者方江金四百正之持参致候間、右之内御移分
仕候、尚以委細之儀者上京之上ニ無之而者申上兼、又人々二者答
意ニ発難く、何とも拝顔之上万端奉申上候、不備謹言

九月

右書状到来候処、明廿六日下村支配人西尾市郎右衛門出府ニ付、
不取敢返翰左之通相認出ス

貴翰忝拜見仕候、如貴諭秋冷相加候処、先以其御地弥御勇剛被成
御座珍重之御儀奉存候、次ニ当方無異儀罷在候間、乍憚御安意可
被下候、然者御在京中ニ每々御懇意ニ預り失敬仕候、御出立前ニ
も御光来被下候処、御心□ニ而何之風情も無之残念之至ニ奉存候、
其後書中を以御尋向可仕筈之處、彼是取紛御無音申上候段御用捨

(70)

可被下候、去比当地岡崎満願寺へ上京之僧へ貴札御伝、乍延引持参拜見仕候、扱兼々御噂御座候半吉義二付、種々御心配被成候由委細奉拜察候、然ル処八月下旬半吉出府二付、於武州玉川洗足御松庵尊像御渡被成候由、右二付貴君様へ、是迄之御骨折として金式拾両差出候処、右之内二而尊像式体、外二神前道具類札守至迄新調二御取扱之由、時節柄殊之外入用相成候由、為後日与思召候段御尤二奉存候、又々時節も御座候ハ、出府仕拜見可仕候、尚又半吉義、来春者上京仕度候由其節面会可致、且 妙見宮御普請之御手伝も為致度思召之段忝奉存候、且年々御冥加相納候義、可然様御取扱可被成様致承知候、就中船中安静之御守札 御殿分御下ケ二相成候旨、将年々引替二相成候様被仰聞通尤奉存候、猶後便二差出可申候、一、洗足御松庵二而御扱置二付、同庵内厚心院へ書状差遣可申様是又致承知候、別紙差出候筈之処、出府之仁差急候間、後便二可差出候間、左様承知可被下候、右二付 御称号を以勸化ケ間敷義等無之様、兼而御心得可被成候へ共、尚又不都合之儀無之様御心得被成、御差支之儀無之様御取斗可被成候

一、御礼金五両・御菓子料金式百足差出し被成、慥二致落手候、御礼金早速及披露候、御菓子料貴君様へ御到来之内、御福分被下候由奉畏候、右二付彼は御心配被下候段不浅大慶奉存候、時節柄二付可然信者御世話方も無之由、何事も御忝人二而御心配之由、御氣之毒千万と奉存候へ共、何分宜敷奉頼上候、尚御上京之節万々可承申候、先々右不取敢御報旁如此御座候、恐々謹言

九月廿五日

友田弾正

松嶋登様

右住所江戸下谷車坂下与力町金子鉄之助地内 此所へ忝封相認下村支配人西尾へ通達之儀相頼申遣候事

武州玉川洗足御松庵ト申所二 妙見宮勧請之様子、同人へ問合相頼申遣候事

一、右松嶋登々書状到来二付、此度武州玉川洗足御松庵与申所 妙見宮勧請之儀、願主豆州下田町半吉義、兼々願之趣弥御書下ケ申受度旨願出候趣、山田氏江相届候処、右御松庵ト申者何れ之末寺歟、且其所領主・地頭役人二も承知之儀歟、急度取調、後日差支無之様致置候様御沙汰二付、尚又書面左之通相認差出候事

一筆致啓上候、寒冷相催候処、先以其御地弥御安健被成御座珍重候儀奉存候、次二当方無異儀罷在候間、乍憚御安意可被下候、然者過日者芳翰被下忝致拜見候、去ル廿六日、幸ひ出府之者有之候間、不取敢御答書差出候、定而御入手被成候与奉察候、右二付此度武州玉川洗足御松庵江 尊像御安鎮二相成候様被仰聞候処、委細致承知候、右御松庵ハ何れ之末寺歟、又者無本寺二而御座候哉、右之地所者何方之領分二御座候哉、領主・地頭二も差支之儀無之候哉、定而夫々不都合之儀無之様、御取扱可有之候与奉存候へ共、為念一応御尋申上度奉存候、地頭・領主役人承知之儀二御座候ハ、可然哉与奉存候へ共、若後日故障出来不都合之儀御座候ハ、御殿御称号二相抱り候儀御座候而者大二心配仕候間、此段篤与御取締可被成下様致度奉存候、一、下田半吉へ船中安静之御祈祷御札差出候間、宜敷御通達可被成下候様奉頼上候、且同人来春上京之内、貴君様も何卒御同道二而御上京可被成下様致度奉存候、一、御松庵内厚心院外二忝人信者取結方之書状可差出様被

(71) 仰聞候処、右両僧ハ本山等之差支無之哉、御称号を以勸化ケ」

間敷儀等致候而者御差支ニ相成儀者勿論、本人之罪障ニ相成候而も不都合ニ御座候間、旁以右等之儀御心得可被成候、尚書外拝顔之節万々可申上候得共、先ニ此段申上候、御松庵之領主并本寺等之差支無之趣、否哉早々御答可被下候様致度奉存候、猶期後音之時候、恐々謹言

十月

松嶋登様

友田一

尚以本文之次第不惡御承知被成下候、後日差支出来候而者、御互ニ心配仕候間、右不都合之儀無之様、幾重ニも宜敷御取扱可被成下候様奉頼上候、以上

慶応四辰年五月九日

一、豊後国府内常妙寺弟子慧了ト申者、久遠山惠覚案内ニ而來ル、右者同国府内西新町米屋善六ト申者、元西門徒宗光西寺旦那ニ有之候処、病氣ニ付日蓮宗ニ改宗致度旨ニ付、跡式養子へ譲り隠居致し常妙寺旦那ニ相成、寺請狀取替セ相済候へ共、光西寺法顯ハ彼是申出候ニ付、除帳手形本紙光西寺へ預り置候旨ニ付、右本紙取戻し度次第内談ニ付、光西寺へ左之通書狀差出候事

以手紙得御意候、然者其地西新町米屋善六義、当御殿妙見宮信仰有之候処、元來其御坊旦那ニ有之候得共、跡式梁平与申者へ相譲り隠居致し、当時常妙寺旦那ニ相成、寺請狀取替セ相済、地頭役人ニも差支無之由ニ而事済候処、其後彼是違論有之、除帳手形其御坊へ預り置ニ相成候由ニ而、甚以不都合之次第如何之儀ニ御座候哉、右之趣常妙寺ハ本山二届ケ出ニ付、本山頂妙寺ハ 当御殿妙見宮信仰

之訳を以示談有之候間、何分右本紙早々御戻し可被成候様可然奉存候、若彼是延引ニ相成候ハ、其御本山之御掛合ニ及可申候ハ、却而表沙汰ニ相成候而者御為方ニも不宜候哉与奉存候間、穩便ニ相済候様可然与奉存候、此段為可得御意如斯御座候、以上

五月九日

大仏御殿妙見宮掛り

友田彈正

光西寺

御房」

(72) 右書狀相認慧了へ相渡候ニ付、同人ハ頼出候次第口上書為差出候事

口上之覚

一、此度豊後府内西新町米屋善六義改宗之儀ニ付、同国光西寺へ御書狀被差遣候様奉願候処、早速御聞済候而御認御差出被成下候段、難有仕合ニ奉存候、右ニ付本紙早々取戻し事済候ハ、御報恩之儀ニ急度為致可申候、且又右ニ付、其御方様へ御難儀相掛り申間敷候、何れ否哉早々可申上候、依而此段申上置候、以上

五月九日

豊後府内常妙寺弟子
慧了

友田彈正様

同年十一月八日

一、豊後府内米屋善六手代栄助ト申者來ル、去ル五日国元光西寺へ書狀被下候処、今以常妙寺除帳手形不相渡候付、今一応手紙御遣被下候様頼申候付、左之通相認大坂藏屋敷へ栄助を以為持遣候事以手紙得御意候、然者先般其地米屋善六宗門請狀之儀ニ付、兼而於以対談相済、除帳手形被差出候処、其後暫時其御坊へ被預置候由不都合之次第ニ付、早々常妙寺へ返達可有之様以書中得御意候

処、今以否哉之御報も無之、常妙寺へ手形本紙御渡も無之趣、如何之儀二御座候哉、何分前段熟談之上、手形被相渡候儀二御座候ハ、今更彼是致混乱候而者、於其御坊も此候而者難相済次第二御座候与奉存候、若自然常妙寺へ被相渡候儀差支有之候ハ、当方へ可被差出候様与奉存候、此段否哉御報可被成候、依右之段為可得御意如此御座候、以上

十一月九日

友田彈正

光西寺御房

一、右書状忝通大坂藏屋敷役人中へ、国元光西寺へ慥二届ケ可被成下様頼遣候事

以手紙得御意候、然者其国元光西寺へ、此書状忝通御届ケ可被成下様頼入令存候、先二此段為可得御意如此御座候、以上

大仏御殿御内

友田彈正

大坂豊後府内御藏屋敷役人衆中」

(73)
(*7)

一、右光西寺へ遣候書状写忝通、常妙寺恵了へ相遣入、別紙忝通左之通

以手紙得御意候、寒冷之節、弥御安静被成御寺務珍重被存候、然者先般米屋善六宗門請状之儀二付、光西寺へ書状差出候処、今以手形本紙常妙寺不相渡候由、此度米屋手代栄助上京二而委細致承知候、右付猶又書状忝通相認差出候、則別紙写忝通差出候間、御落手可被成候、尚又善六方へ可然御通達可被成候、此段為可得御意如斯御座候、以上

十一月十日

豊後府内

常妙寺

恵了殿

右之通米屋手代栄助へ相渡候事

明治元年辰十月廿八日

一、常州府中平村住人竹村政右衛門来ル、右者去安政四巳年 妙見

宮御写尊像頂戴仕候処、此度同村税所紋^{サイシヨ}弥持地面之内へ勸請仕度

二付、地頭役人中へ手紙差遣候様頼出候二付、左之通認相渡候事

一筆致啓上候、然者其御領内府中平村住人税所紋弥・金子源兵衛・

竹村政右衛門、右之者共依願、去安政四巳年從 当御殿妙見宮尊像

壳体御授与二相成候処、兼々心願二付、今般税所紋弥所持之地面之

内へ、妙見宮仮建物仕度旨申出候付、於其御地御差支無之候ハ、

願之通御許容可被成遣候様致度奉存候、則天下泰平・五穀成就・其

地安全・武運長久之守護ニも可相成候間、可然御取斗可被成遣候様

頼入存候、尤右二付、当御殿御威光を以勸化ケ間敷儀者勿論、且

御差支二相成候儀者決而為致申間敷候、尚委細之儀者本人へ御聞取

可被下候、依而此段為可得御意如此御座候、以上

十月廿八日

大仏御殿

妙見掛り友田彈正」

(74)
(*8・9・10)

松平播磨守殿御領内

郡方

社寺方

御役人中

右之通相認、竹村政右衛門へ相渡候事

友一

明治二年己四月廿二日夕方

一、豊後国府内米屋善六并親類大坂屋新次郎来ル、右者去辰年五月同国常妙寺弟子恵了の願二付、光西寺へ書状差遣候儀二付、面会致頼度旨申出候付、兩人へ面会候処、光西寺の手形書付今以返却無之、甚以困り入二付、何卒早々相渡申候様取扱頼来候趣候へ共、此日夕景二付、尚又明日参上之旨申置引取候事

廿三日昼後

一、米屋善六・大坂屋新次郎来ル、国産椎茸到来、外二酒肴持参、昨日申出候光西寺一件談判候処、於光西寺も一応寺請状取替七相濟候処、但寺の彼は申出候付、延引相成候趣二御座候得共、此度上京二付、本山頂妙寺へも一応内談之上取扱方も可有哉、国許地頭役人二内談申候哉、種々談判致置候事

廿四日昼後

(75) 一、米屋善六并頂妙寺中龍妙院来ル、役者の書状持参左之通以手紙啓上仕候、時下薄暑之砌二御座候処、先以尊家益御清栄被遊、御勤務欣喜不少奉賀候、然者今般当山末寺豊後府内常妙寺且中米屋善六与申者、宗門請状之儀二付、同国光西寺へ先般已来種々対談二及候得共、兎角熟談二不相来趣而、右常妙寺の申出候付、巨細尋問仕候処、前来尊家而御取扱被下置候由承之、忝次第奉謝辞候、猶此上者格別之思召を以、前条和熟二相成候様、御取斗之程伏而奉頼上候、右御願迄書中を以如此御座候、已上

四月廿四日

頂妙寺
役者

友田彈正様人々御中

一、右二付龍妙院申出候者、今一応光西寺へ書面遣し候様申出候付、尚又勘考之上書面相認差出候様申聞「」仕候事

一、右二付光西寺へ書面左之通遣候事

一筆致啓達候、向暑之節御座候処、弥御安静被成御寺務珍重奉存候、然者去辰年五月并十一月等両度迄、以書中得御意候其御地米屋善六宗門手形之儀、常妙寺へ早々被相渡候様毎々申入候得者、今以御渡無之趣且常妙寺へ被相渡候儀差支有之候ハ、当方へ可被差出候様申入候得共、否哉之御答も無之候者、如何之儀二御座候哉、兼々常妙寺の本山頂妙寺へ申立候者、元来其御坊且中善六義、跡式梁平与申者へ相譲り、親類方へ引取除帳二相成、寺請状取替而無差支相濟候儀二御座候処、其後且中之者相見七候様被申候付、内々貸渡申候処、其俣而返却無之趣於常妙寺も不都合之儀、本山の屹度取調可申候ハ、其御坊二も彼是不束之次第、穩便二も難相濟儀二御座候、右二付頂妙寺の当方へ取扱之儀頼出候付、彼是延引二相成候而者、猶更御心痛之儀も可有之哉与奉察候、当御時節被 仰出候儀二付、先般於 当御殿諸宗本山一同集会も御座候間、自然時宜二依り、如何様与も談判二可及候間、右書付早々御渡可有之様与奉存候、頂妙寺の常妙寺へ申達候儀も御座候間、否哉早々御答可被成候、依而此段為可得御意如此御座候、以上」

(76) (*11)

四月廿五日

光西寺
御房

友田彈正

四月廿九日

一、米屋善六来、右之書状相渡淨妙寺の光西寺へ通達候様申渡、頂
妙寺龍妙院・淨妙寺へも手紙之写相渡候事
但し、米屋善六の妙見宮へ金壹両奉納之事

明治三庚午年四月廿八日

一、久遠山妙見堂御供所留主居僧願出候願書左之通

乍恐奉願上口上之覚

一、

私義

久遠山妙見宮信仰仕候二付、御供所留主居被 仰付候様奉願上度
奉存候、願之通御許容被成下候ハ、朝夕勤行無怠慢掃除等入念
可仕候、尤 御称号を以勸化ケ間敷儀決而仕申間敷候、万一心得
違之儀御座候ハ、証人之者者引請、御役人様方へ少しも御難儀
相懸申間敷候、御供所御入用之節者何時二而も引取可申候、此段
格別之 御憐愍を以御許容可被成下候ハ、難有仕合ニ奉存候、
以上

明治三庚午年四月

生国尾州名古屋

妙蓮寺弟子大順印

同国主税筋□吉男

三十歳

証人

松原広道西入

丹波屋兼吉印

同 同轆轤町

近江屋嘉吉印

引取 下鴨西寺町

百姓弥兵衛印

大仏御殿
久遠山
妙見宮御掛り
御役人中様

右願書評席へ差上候、羽州殿聞込無御差支処、願之通御聞濟之旨御
達候事

但し、願之通御聞濟二付、四月廿八日行移候事、已之助内々世話候

事

明治三年午十月朔日

一、久遠山於妙見堂前北ノ方二而相撲興行二付、願主の願書左之通

乍恐奉願上口上之覚

一、当御山妙見宮私共信仰仕候二付、来ル十月朔日参詣仕、於御堂
前臨期小相撲奉納仕度奉存候、 御殿御差支無御座候ハ、何卒
願之通御許容可被成下様奉願上候、決而大業之儀者不仕候得共、
万一故障ケ間敷儀出来仕候ハ、私共罷出早速取静可申候、
御殿御役人様方江少も御難儀相懸ケ申間敷候、尤御政府御役人御
出張所へも御届申上置候、此段宜敷御取成之程偏ニ奉願上候、以
上

明治三年庚午九月

信者惣代

井筒屋亀次郎印

願主

熊谷仁右衛門印

大仏御殿

久遠山妙見宮御掛り
御役人中様

(78) 右願書九月廿五日評席へ差出候処、同廿八日御聞濟之旨御達二付、

近辺へ大仏妙見山ニて
奉納すもふ興行

左之通張紙致し候事

朔日

一、於御堂北ノ方床ニて山林方出役、其外家中一同見物場出来之事

一、北寄ニ土俵場竹を建、幣・弓・手桶等伏見海道七丁目杖吉ハ奉納之事

一、諸雜費井筒屋龜次郎ハ取扱候事

一、山林方鈴木玉菟殿・松井千秋殿・下役藤木松五郎出役、赤飯・にしめ・中飯・に物等出ス

一、午之刻比ハ始り、酉之刻比無滞相済候事

一、幕老張拜借、当方ハ幕三張、堺重面之益等借用之事

午十月九日

一、評席ハ御達、久遠山妙見宮留主居ハ是迄ハ人扶持被下置候処、

御模様替り付、年分ハ御供米玄米壹石宛御奉納二付、当方ハ取次

相渡可申様、御沙汰之趣奉敬承候事

但し、是迄扶持方当方ハ取替相渡候得共、近来不都合も無之候付、

改而此度御備二相成候ハ共、尤当方ハ取次可申様被仰付候事

一、右御供米此度世話方ハ可相渡旨、依願世話方井筒屋龜次郎・其外信者中ハ相渡候付、請書左之通差出候事

御請書

一、当御山妙見宮私共信仰仕候付、御修覆万端追々御世話申上度奉

存候、右二付御供米年分壹石宛御備二相成候趣二付、右御供米私

共ハ御渡二相成候段、深難有奉存候、尤御堂守僧無懈怠勤行可仕

候得共、万一心得違而如何様之儀有之候共、御堂守二不抱私共引

(79)

請不都合無之様屹度御世話可申上候、御役人」様方ハ御難儀相懸

申間敷候、已来何事二而も私共引請御世話申候得共、御掛り御役

人様方ハ相伺、御差図次第無相違取扱可仕候、依而御請書差上申候、以上

明治三年庚午十月

信者惣代
井筒屋龜次郎

元世話方

大仏御殿

久遠山妙見宮

御掛り御役人中様

但し、右御供米之儀二付、藪沢九華殿ハ井筒屋龜次郎ハ内々示談

之儀有之候付、此度世話方ハ直様勘定所二而相渡候様願度旨

二付、当方ハ書付左之通差出候事

覚

一、玄米五升

右者久遠山妙見宮御供米御渡可被下様奉願上候、以上

庚午

十月十三日

御勘定方

御役人御中

友田正印

一、右御供米五斗御渡二相成、今日会式供養可相勤旨二付、当方ハ白米五升・神酒壹升掛銭式百銅差出候事

一、右之儀二付、藪沢氏彼是取扱有之候付、今小路氏ハ内々申入、

九華殿義妙見宮掛り二被仰付候様申入置候事

一、会式供養二付、於山御供所信者中ハ酒飯出候付、九華・正參詣

之事

明治四年辛未五月十八日夜

一、大風雨二付久遠山御堂并御供所大破二付、御殿江相伺候処、当

分大仏殿飯堂北ノ方御玄関之所飯遷座可仕候様被 仰出候二付、

(80)

六月朔日」妙見宮并三宝前鬼子母神等遷座供養候付、七日分御供

米五斗別段依願御渡ニ相成候様申出候付、前借被相渡候事

六月十日

一、山御供所大破ニ付迎も修覆難相成候付、建物御取払ニ付、世話方へ金拾五兩ニ御下ケ渡シニ相成、右金子雜務役所へ上納受取書被相渡候事

明治四未年六月十七日

一、相州小田原熊沢屋清七ハ未・申兩年分奉納金貳百疋、富小路仏光寺下ル市田屋清七ハ伝達而持参付、返書左之通差出候事

芳札致披見候、如來諭甚暑之節御座候処、其地被為揃弥御安全珍重令存候、次ニ当方無異儀罷在候間、乍憚御安意可被下候、然者此度市田屋清七殿手代衆幸便付、妙見宮へ奉納金貳百疋御伝達可被成下、慥令受納候、右者当未年・來ル申兩年分之趣委細致承知候、日々於 御宝前御家内安全・商売繁昌・運命長久之御祈禱相務申候、去巳年・午年兩年分巳四月紅屋定右衛門殿ハ金貳百疋伝達有之、慥ニ致受納候、其節同人方へ請取返書差出候、左様御承知可被下候、毎々家族共へ御丁寧ニ御加筆被下忝奉存候、是ハも宜敷申上度旨申度候、乍末筆御家内御店一同へ、宜敷御伝聞可被成下候様頼入候、先者右御答迄如此御座候、返々不備

六月十八日

友田正

熊沢屋清七殿

尚以六月四日出之書狀同月十七日着致披見候、追而嚴暑甚敷御座候、随分御自愛御請可被成專一二祈入候、御端書之趣御入念儀忝奉存候、以上

辛未六月廿五日

一、去ル慶応二年寅三月、松嶋登を以豆州下田町半吉ハ依願妙見宮写尊像一体、同十二月松嶋登へ相渡下向候処、此度彼地ニ於て堂社建立之由ニ付、左之通書面到来之事」

(81)

乍恐以愚墨啓上仕候、暑中之砌御座候へ共弥以 御上様始御尊君様無為御替御静榮大慶不斜奉存候、然者妙見尊星御普請漸々出来仕候、尤前々万事御伺申上度趣者、松嶋様へ御頼申上置候処、今般普請成就仕候ハ、種々之忌合等罷出甚以劳仕候、此段御推察被下、所々御出役又者菩提寺等ハ色々之儀ニ而御座候、先徳川家時刻と者事違、御一新之時相成候ハ、振合等相違仕万事差障無之様、巨細御差図奉願上候

一、御棟札奉忍入候得共、上様ハ御頂戴候様御取持之程、偏ニ奉希上候

一、表立札書方 一、御影書方 一、海上安全守 一、寿命長久守 此義是迄所々江差出シ申度存居候得共、在家ニ而差出候儀彼是申族有之候故、等閑仕居候角、今般一字成就之上者、信心之輩江為致頂戴、金印ニ相調シテ早々相登セ可申候

右之御願申上候趣、早々上京仕候上御願可申候処、暑中殊二者老々之身体ニ而歩行心底ニ不任候、來春二者早々上京仕得貴願、万端御願可申上、此段御取成被下候様宜敷御取斗偏ニ奉願上候、一、妙見宮御普請間口十間・奥行七間・惣土蔵造り、未夕惣勘定相調不申候得共、凡二箱程も相懸り申候

一、御遷座之儀当十二日仕候、其砌種々混乱仕候故、信者中ニ而御題目御經營供養仕候、一、名主鈴木清吉方へ信心之趣ニ付、彼是差構無之様此段恐入候得共、可然様御書翰奉願上候并名主方ハ菲

山江川太郎右衛門殿へ御達シ之段、御書添□遊被下候様奉願上候、先ニ申上度用事而已如斯御座候、猶来陽得尊顔万端可申上候、恐々謹言

六月十七日

豆州加茂郡下田町
平田半吉

友田弾正様

二白申上候、万事御返書之義も豆州三嶋宿定飛脚加嶋仁三郎方迄御遣シ可被下候、左候得者并理宜御座候、以上」

(82) (*12)

明治四辛未年十月十四日

一、河原町二条上ル清水町妙見宮之儀、御政府ヨリ御尋ニ付答書左之通

上京三十一番組河原町二条上ル清水町妙見尊像之儀ハ、宝暦年中当院ヨリ授与候処、天明八年大火之節堂舎焼失ニ付、右尊像預リ置候処、去万延元申年七月、右町中ヨリ依願下ケ渡申候儀ニ御座候、以上

明治四辛未年十月

妙法院役者
菩提院

京都
御政府

右ニ付、妙見菩薩ハ妙法院江返却致、其仏具ハ売却、代料其組ノ小學校へ可差出候事、但シ、太鼓ハ其俣小学校へ差出シ、時封之鼓ト可致候事

右清水町江達ニ付、小林利右衛ヨリ今日 妙法院江返上ニ付、左之通請取書相渡ス

覚

一、妙見菩薩像一体 一、三天合体大黒天一体 一、三宝高祖師像一体
右請取申候、以上

明治四辛未十月

妙法院役者印

清水町

小林利右衛門
植松久兵衛

右請取書被相渡後拙宅入来、妙見宮別ニ勸請ニ相成候者ハ、信者ヨリ願度旨茂御座候由承置候事

一、右妙見尊像清水町信者中ヨリモ、御寺中ニテモ御鎮座ニ相成候様願之処聞置候得共、役者中内談之上大仏殿へ鎮座之旨元世話方ヨ願書左之通

申三月七日

乍恐奉願上口上之覚

一、当御室御抱久遠山妙見宮私共兼而信仰仕候処、去ル未年五月大風ニ而御堂及大破候付、大仏殿北ノ方へ御仮遷座被為在候処、堂守大順不束之儀有之脱走仕、寔以奉恐縮候、私共ニおゐても何とも申訳も無御座候得共、格別之 御憐愍を以、其俣御鎮座ニ相成候様難有仕合奉存候、然ル処、先比清水町分返納御座候」妙見尊像御同所へ御勸請ニ相成候様奉願上度奉存候、右ニ付奉納物之儀私共へ御任セ被下候ハ、御冥加上納可仕筈ニ御座候得共、當時奉納物多分無御座候間、少々宛ニ而も上納可仕候、尤追々繁栄ニも相成候ハ、規則相立可申候、依而此段格別之御憐愍を以御許容可被成下様、偏ニ奉願上候、以上

明治五壬申年三月

妙見宮信者惣代

吉田五十一印

石田源七同

村田亀次郎同

家原伊兵衛同

妙法院様

御役者御中様

右二付、当家二茂先年来諸雜費多分取替物有之候二付、此度改而世話方分別紙一札差出候書付左之通

口上之覚

一、久遠山妙見宮義者、其御方様元御掛りニ而万端被成御取扱、從來諸雜費・多分御取替物・御借財等も有之候趣、兼而致承知候、然ル処、昨未年五月大風ニ而久遠山御堂及大破候付、大仏殿之御仮遷座御座候処、堂守大順不束之儀有之脱走仕候付、私共ニおゐても深く奉恐縮候、然ル処、

御室分も格別之 御憐愍を以其候御鎮座御座候様、難有仕合奉存候、右二付、此度清水町分返納有之候 妙見尊像御同所へ御勧請ニ相成候様奉願上候、此段宜敷御取成之程奉頼上候、右二付 御室江茂御冥加上納可仕候、且其御方様江茂從來之御心配筋も御座候間、是又少々宛ニ而も御冥加差出可申候間、奉納物私共へ御任セニ相成候様奉願上候、追々繁栄ニ相成候ハ、猶又其節規則相定、御差図次第二可仕候、此段宜敷御取成可被下様奉頼候、以上

明治五十年十二月

信者惣代

吉田五十一印

石田源七同

友田正様

村田亀次郎

家原伊兵衛同

(84) 右役者中へ差出ス

壬申二月朔日

一、妙法院殿役者江差出ス書付左之通

奉願口上之覚

一、久遠山妙見堂之義者、去ル嘉永四辛亥年御境内上馬町三嶋社内妙見宮御室御支配ニ相成、諸国信者年参講取結 御門室御益二茂可相成候訳ニ而、追々繁栄付、同六年五月、御領山日吉裏空地へ右妙見宮拝所引移、久遠山ト称シ万端私掛り役被 仰付取扱仕候ニ付、諸雜費・多分入用御座候得共、友田右京江御供所留主居被仰付、御供米壺人扶持被下置候処、右京退身後私方分堂守見立、差入置候義ニ御座候処、明治三十九年十月、堂守大順并世話方直ニ依願、更ニ御供米年分壺石宛御渡シニ相成候、其節分私方手離同様ニ相成罷在候、然ル処、去辛未年五月、大風ニ而御堂并御供所及大破候付、大仏殿北ノ方へ仮遷座ニ相成候処、同十一月右御堂建物売払、代金を以私方へも配分可有之候様内談も御座候得共、他所へ売払候義余り歎ケ敷奉存候付、元之三嶋社内へ引移申度奉存候様、彼是内談中、大順猥りニ売払代金奪取脱走仕候由ニ候へ共、右木材・瓦等引取候を被見受、過半御止置ニ相成趣承知仕候、右ニ付從來諸雜費」多分失脚等付、尤他借も有之難決仕候付、御下ケ金も奉願上度奉存候得共、御時節柄恐入候付、何卒右古瓦・木材等私方へ御下ケニ相成候様奉願上度奉存候、此段宜敷御取成之程偏ニ奉願上候、以上

(85)

壬申二月

友田重行印

妙法院様

御役者御中

右願書差出候処聞濟候而、古瓦凡式千枚余・木材少々代金六兩二大工弥兵衛へ払渡ス

一、右二付敷沢氏々当分拝借之義も有之候付、万一彼是申分も無之候哉付、一応右内談之上別紙請書差出、右付外方々彼是申出候者御座候ハ、私方より引合仕、御難儀相懸申間敷旨一札差出候事但し、役者中へ菓子料金百足差出ス
是又木印見受候由内分
役者々申間候以上、云々

明治五壬申年七月八日

一、大仏殿仮遷座御座候久遠山妙見宮御番参籠罷在候、吉田五十義病氣二付退身為致、然ル処畳屋源七一昨夜入来二而、元鋸屋善五郎娘いち々内談二而、此度妙見宮御番参籠為致度者御座候間、右之者替り二願申度旨申出候付、左之通口上書差出させ候事
口上之覚

私義

從來妙見宮信仰仕候二付、此度大仏殿二仮鎮座御座候久遠山妙見宮御宝前二昼夜参籠仕、題目修行仕度奉存候、并御堂内外掃除等無懈怠仕、尤御差支二相成候義ハ決而不仕候、万一病氣等差起如何様之儀出来仕候共、請人・証人罷出早々引受可申候、御掛り之御方様へ決而御難儀相懸申間敷候間、此段宜敷御取成之程偏二奉願上候、以
上

(86) 明治五壬申年七月

下河原金園町二戸籍御座候
本人 星野平兵衛

友田重行様

錦小路柳馬場西北角
請人 川端伊助

河原町四条下ル二町目
証人 磯部以知

右平兵衛義十月九日病氣二付引取候処、代人磯部いち々差入可申様申候得共、早々宜敷人体も無之候二付、妙法院様役者々示談二而本尊ハ本殿江返納致シ、其余御前立初当方へ引遷候事
十一月朔日

一、久遠山妙見宮大仏殿二仮座御座候処不都合二付、当家神樂所北ノ方へ仮勧請仕候二付、磯部いち々誦經師尼来、齋出ス
十一月九日

一、妙見宮火焚二付月参講、其外共五拾人余参詣之事

但シ、湯漬 飯 一、に物大こん 一、中酒 にしめ 五種
汁赤ミそ セリ一、ちよく葉人しん ひたし

右おいち・おいく奉納

其外入用別記ニアリ

一、御供米袋四十五 米一斗二升 金二歩二付 奉納分
錢拾貫文

(墨付86丁目まで。 87〜93丁目(裏表紙) まで白紙)

* 1 (19・20丁目間挟込文書(豎紙続紙) / 406・1号)

口上之覚

一、右絵図面之通、去ル酉年九月建直し申度奉願上候処、願之通御聞濟被下、戌年六月九日

三浦諦次郎様・田中寛次郎様御見分相済候処、此間勝手二付^度右^二不出^一来
 拜所^三卷^二間^一半・梁式間之処、取締^私柅^三庇^二□□^一
 右拜所当時延引仕候間組建候処、取払申度奉存候、此段御伺申
 上度奉存候、以上」

*2 (20丁目袋中文書(切紙続紙) / 406-1号付)

口上之覚

一、別紙絵図面朱引之通、去ル酉年九月建直し申度奉願候処、御
 聞済被成下、戌年六月九日乍未出来御見分相済候処、右拜所普
 請延引仕度奉存候二付組建候所、当時取払申度奉存候、此段
 内々御伺申上度奉存候、以上

子五月

三嶋社
友田右京

出願之節御掛り

下田耕助様

山内倉三郎様

御見分之節

三浦諦次郎様

太田儀兵衛様

右前文之次第可然御取斗奉願上度奉存候、以上」

*3 (40・41丁目間挟込文書(豎紙) / 406-2号)

乍恐奉願上口上之覚

一、宝暦年中当町内鎮守として、大仏上馬町三嶋社内妙見写像相
 受勸請仕来候処、天明度大火之節社類焼仕候処、去ル万延元年

社再興相願候処、猶又元治元子年大火之節類焼仕候二付、仮社
 取建仕候得共、此度 御一新二付、右三嶋社内妙見本像并宝蔵
 造社共、当町内へ讓受勸請仕度奉存候、此段御差支無御座候
 者、願之通 御許可可被成下様奉願上候、以上
 慶応四辰年五月 河原町二条上ル清水町

年寄

五人組

京都府
御役人中様」

*4 (46・47丁目間挟込文書(豎紙) / 406-3号)

乍恐奉願上口上之覚

一、当社内二鎮座有之候妙見社由来者、別紙之通二御座候、然ル
 処、今般 御一新二付、社内神仏混淆仕候二付、去ル宝暦年中
 河原町二条上ル清水町之鎮守として、当妙見写像相授勸請仕来
 候二付、此度右町内へ本像遷座仕度奉存候、此段御差支無御座
 候ハ、願之通御許可可被成下候様奉願上候、以上

慶応四辰年五月

大仏上馬町
三嶋社神主
友田左京

京都府
御役人中様」

*5 (53丁目袋中文書(豎紙) / 406-4号)

覚

一、河原町二条上ル清水町二鎮守有之候妙見社江、宝暦七年從
 当御殿菊御紋附御幕壹張、同御紋付提灯二張御寄附有之候処、

右社天明度大火之^災砌^跡致焼失候ニ付、右御幕御提灯等当御殿へ御預り置ニ相成有之候処、此度右社致再興候ニ付、如已前御下ケニ相成候様願出候ニ付被相渡候、仍而為御念御届被仰入候、此段武辺へ令御通達可被進候、以上

妙法院^殿宮御内

今小路治部卿

両伝
広橋前大納言様
雜掌御中」

* 6 (55丁目袋中文書(切紙続紙) / 406-5号)

「 取替一札之事

一、北辰妙見尊像 壹体
一、御前立尊像 壹体
一、十界額 壹ツ
一、軸物 八幅
一、法華經 壹部
一、経机 壹脚
一、御膳台 壹脚
一、杓 壹对
一、石灯笼 壹基
一、御札板木類

右此度当町内へ御遷座之儀、願之通御許容ニ相成候上者、無相違御引渡可有之候、右ニ付別当職之儀者、永々其御方へ御勤可有之候得共、平日常用之儀者町内ニ而取扱可申候、臨時法用有之候節

者御届可申上候、出願届事万端者町内与其御方与相談之上、其御方へ御取扱可有之候、奉納物等別紙之通無相違上納可申候、御堂守役者其御方之下役人之心得ニ而可有之候、右之通規定致候、為後日取替セ一札依而如件

慶応四年
辰三月

清水町
年寄

惣代

三嶋社神主
友田左京殿

後見
友田彈正殿

覚

一、大政官御掛り役人へ年八御札之事、追而治定
一、大仏御殿江年八御札上納金貳百疋・御扇子料金貳拾五疋・御役人中へ金百疋
一、三嶋社江御灯明料金壹両奉納

但し、追々繁栄之節ニ加増可有之候得共、先当分左之通奉納之事

右之通無相違差出可申候、為後日依而如件

慶応四年
辰六月

清水町
年寄
惣代

三嶋社神主
友田

後見
友——」

*7 (73丁目袋中文書(切紙統紙) / 406-6号)

〔明治元年辰十月〕

常州府中松平播磨守殿領分役人添書扣」

「一筆致啓上候、然者其御領内府中平村住人

税所紋弥

金子源兵衛

竹村政右衛門

右之者共依願去安政四巳年從 当御殿妙見尊像壹体御授与二相成候処、兼々心願二付、今般税所紋弥所持罷在候地面之内二、妙見社仮建物仕度旨申出候二付、於其御地御差支無之候ハ、願之通御許容可被成遣候様致度奉存候、則天下泰平・五穀成就・其地安全・武運長久之守護二茂可相成申候間、可然御取斗可被成遣候、尤右二付御威光を以勸化ケ間敷儀、且御差支等二相成候儀者決而為致申間敷候、尚委細之儀者本人分御聞取可被下候、依而此段為可得御意如此御座候、以上

大仏御殿

妙見掛り

友田彈正

松平播磨守殿

領内

郡方
寺社方

御役人中」

*8 (74丁目袋中文書(切紙統紙) / 406-7号)

〔明治元年〕
友田彈正様 頂妙寺
人々御中 役者」

「以手紙啓上仕候、時下薄暑之砌二御座候処、先以

尊家益御清榮被遊、御勤務欣喜不少奉賀候、然者今般当山末寺豐

後府内常妙寺且中米屋善六与申者、宗門請狀之義二付、同国光西

寺先般已來種々対談二及候得共、兎角熟談二不相成趣二而、右常

妙寺分申出候二付、巨細尋問仕候処、前來

尊家二而御取扱被下置候由承之、忝次第奉謝辭候、猶此上其格別

之思召を以前条和熟二相成候様、御取斗之程伏而奉願候、右御願

上書中を以如此御座候、已上

四月廿四日

頂妙寺
役者

友田彈正様
人々御中」

*9 (74丁目袋中文書(切紙) / 406-8号)

「頂妙寺中

龍妙院」

*10 (74丁目袋中文書(切紙統紙) / 406-9号)

「以手紙得御意候、然者先般其地西新町米屋善六宗門請狀之儀二付、兼而前以対談相済、除帳手形被差出候処、其後其御坊へ暫時被預置候由二而、不都合之次第二付、常妙寺へ早々通達可有之候様、以書中得御意候処、今以否哉之御報も無之、常妙寺へ手形本紙も御渡も無之趣、如何之儀二御座候哉、何分前段熟談之上、手形被相渡候儀二御座候ハ、今更彼是混乱致し候而者、其御坊二而も、

此假而者難相濟次第第二御座候与奉存候、若本紙常妙寺へ御渡被成候儀も差支有之候ハ、当方へ可被差出様与奉存候、此段否哉御

報可被成候、依而右之段為可得御意如此御座候、以上

十一月九日

友田弾正

光西寺
御房

*11 (75・76丁目挟込文書（横帳）／406・10号）

（1丁目）

「^⑩瓦之通」

「^⑩大仏瓦町南門前
御用瓦師
井上重郎兵衛」

日吉山

妙見宮様用

三月十七日

一、七枚

「^ㇿけこば」

代二匁分

一、三十四枚

かんふり

内二枚引

メ三十二枚

代九匁六分

一、貳枚

はな^同

代壹匁

一、三本

巴

代一匁五分

右之通槌受^ㇿ申候

一、針金

代三分六り

葺手間壺人

代四匁三分

メ拾八匁八分六り

外二手伝壺人

代貳百五十文

右者大屋根御用」

（2丁目）

「^ㇿ瓦之通」

「^ㇿ大仏瓦町南門前
御用瓦師
井上重郎兵衛」

日吉山

妙見宮様用

三月六日

一、廿四枚 唐草

同 一、二枚 角

同 一、八枚 「^ㇿけこば」

右之通槌ニ請取申候

同 一、三十二枚 上之^ㇿ華

同請取

同 一、三十二枚

同^ㇿ華

同 一、三十二枚 華^カ同
 同 一、廿四枚 のし
 同 一、八枚 け^カこ^カば
 同 一、拾枚 華^カ
 一、三十五枚 華^カ
 一、三十五枚 華^カ
 右之通槌受取申候
 御裏ひさし御用
 八枚引
 一、百六十八枚 上之^カ華^カ
 代三十一匁五分
 三十引^カ
 一、廿壹枚 唐草
 代六匁三分
 一、貳枚 角
 代壹匁
 一、十六枚 け^カこ^カば
 代四匁八分
 二枚引

一、廿二枚 のし
 代四匁四分
 一、百本 竹釘
 代三匁壹り
 葺手間壹人
 代四匁三分
 一、五十二匁
 六分二り
 外二手伝壹人
 代貳百五十文
 二口
 一、七拾匁匁
 四分八り
 外二五百文」

*12 (82丁目袋中文書(切紙統紙) / 406-11号)

「乍恐以愚墨啓上仕候、暑中之砌御座候得共、弥以
 御上様始御尊君様無為御替、御静榮大慶不斜奉存候、然者妙見尊
 星御普請漸々出来仕候、尤前々万事御伺申上度趣者、松島様江御
 頼申上置候処、今般普請成就仕候ハ、種々之忌合等罷出甚以劣
 仕候、此段御推察被下、所々御出役又者菩提寺等々色々之義二而
 御座候、先徳川家時刻と者事違ひ、御一新之時相成候ハ、振合
 等相違仕万事差障無之様、巨細御差図奉願上候
 一、御棟札 奉恐入候得共、上様分御頂戴仕候様御取持之程、偏

ニ奉希上候

一、表立札 書方

一、御影 書方

一、海上安全守

一、寿命長久守

此義是迄所々江差出シ申度存居候得共、在家ニ而差出シ候義披^(後々)是申旅有之候故等閑仕居候角、今般一字成就之上者信心之輩江為致頂戴、金印ニ相調シテ早々相登セ可申候

右之御願申上候趣、早々上京仕候上御願可申之處、暑中殊二者老々之身体ニ而歩行心慮ニ不任候、来春二者早々上京仕得尊顔、万端御願可申上、此段御取成被下候様、能敷御取斗偏ニ奉願上候一、妙見宮御普請問十間・奥行七間・惣土藏造り未夕物勘定相調不申候得共、凡式箱程も相懸り申候

一、御僊宮之義当十二日仕候、其砌種々混乱仕候故、信者中ニ而御題目御経営供養仕候

一、名主鈴木清吉方江信心之趣ニ付、披^(後々)是差構無之様此段恐入候得共、可然様御書翰奉頼上候并名主方々葦山川太郎右衛門殿江御達シ之段、御書添被遊被下候様奉願上候、先者申上度用事而已如斯御座候、猶来陽得尊顔万端可申上候、恐々謹言

六月十七日

豆州加茂郡下田町
平田半吉

友田彈正様
余人々御中

二啓申上候、万事御返書之義者、豆州三嶋宿定飛脚屋加嶋仁三郎

方迄御遣シ可下候、左候得者弁理宜御座候、以上」

（訂正）

・25丁目①

誤 一、御祈祷御題目上牧本澄寺参詣、大会講中

正 一、御祈祷御題目上牧本澄寺参詣、大会講中

・25丁目②

誤 一、例年之通構中御祈祷題目修行奉納物

正 一、例年之通構中御祈祷題目修行奉納物

・27丁目①

誤 一、堺構中万屋弥七与申者

正 一、堺構中万屋弥七与申者

・27丁目②

誤 構中へ書下ケ

正 構中へ書下ケ

・27丁目③

誤 大坂構中兼而御世話

正 大坂構中兼而御世話

・27丁目④

誤 構中ニも面会致し度趣ニ付

正 構中ニも面会致し度趣ニ付

・28丁目①

誤 御届申上大坂構中始末申上

正 御届申上、大坂構中始末申上

・28丁目②

誤 当構中之存寄等委細申上

正 当構中之存寄等委細申上

・ 28 丁目③

誤 一、大構中信者へ寄附相頼候次第内談

正 一、大^(右カ)構中信者へ寄附相頼候次第内談

・ 29 丁目

誤 大会構中・栄寿講中参詣

正 大会構中・栄寿講中参詣

「構」の文字の釈読に関しては、立正大学名誉教授北村行遠氏より、近世の日蓮宗関連の史料では、「講中」を表記する場合、「ま」（てへん（手偏））を用いて「構中」と書くことが多くあるとのこと教示を得ました。記して感謝申し上げます。